

『精選 言語文化』（言文 703）年間学習指導計画作成のための資料

月	単元名 教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
◆言の葉の森に分け入る	<b>日本語の響き</b> ●声に出して読み、日本語の言葉の響きやリズムの特徴を理解する。 ●日本の言語文化の特徴について理解を深める	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「日本語の響き」を声に出して読み、言葉の響きやリズムを楽しむ。 2 日本語の言葉の響きやリズム、文字遣いが時代とともにどのように変化してきたか、気づいたことをあげる。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>知・技</b> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア) ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。(2)ア)
	<b>日本語の表記法</b> ●日本語の書き言葉のもつ「創造性」について考える。 ●日本の言語文化の特徴について理解を深める		◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 筆者は日本語の表記法の特異性をどのように説明しているか、箇条書きにして整理する。 2 「〈書き言葉〉は〈話し言葉〉の音を書き表したものではない」とあるがなぜか、説明する。 3 表記の使い分けが「意味の生産」に関わっている具体例をさがし、その表現効果について話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(2)エ) ・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。(2)オ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2)カ) <b>思・判・表</b> ① 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) <b>主</b> ・言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを進んで理解し、積極的に自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、学習の見通しをもって我が国の言語文化について論述しようとしている。 ◆言語活動例 ・我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動。(Bア) ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。(Bウ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	一 古文入門	<p><b>古文の世界へ</b></p> <p><b>児のそら寝</b> 文法から解釈へ①古語辞典 古文を読むために①歴史的 仮名遣い／いろは歌／五十 音図</p> <p><b>絵仏師良秀</b> 文法から解釈へ②用言 古文を読むために②品詞分 類／用言と活用形／動詞／ 形容詞／形容動詞／形容詞・ 形容動詞の語幹用法／省略</p> <p>●古文の世界に分け入っ て、言語文化への関心をも つ</p> <p>●古文の言葉やきまりにつ いて基本的な事項を学ぶ</p> <p>●「説話」に描かれた人物 の言動や心情を読み取る</p> <p>●「説話」に描かれた世界 観や人間のありようを考え る</p>	3	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>・「古文の世界へ」を読む</p> <p>・歴史的仮名遣いに注意して繰り返し音読する。</p> <p>・児が心の中で思っている部分を抜き出し、心の動きを整理する。</p> <p>・児が「寝たる由」をしていることに僧たちが気がついたのはいつか話し合う。</p> <p>・良秀が「これこそ、せうとくよ。」と言った理由を説明する。</p> <p>・絵を描くことに対する良秀の姿勢をどう思うか話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <p>・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</p> <p>・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ)</p> <p><b>思・判・表</b></p> <p>①作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ)</p> <p><b>主</b></p> <p>・進んで文語のきまりについて理解し、自分のものの見方を深め、学習課題にそって作品の内容について批評しようとしている。</p> <p>◆言語活動例</p> <p>・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)</p>

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	二 随筆	<b>枕草子</b> 春はあけぼの  ありがたきもの 古典の扉 古典の四季・美意識 古文を読むために③係り結びの法則ノ音便  <b>徒然草</b> 【参考】つれづれなるままにある人、弓射ることを習ふに  丹波に出雲といふ所あり  奥山に、猫またといふものありて  ある者、小野道風の書ける  雪のおもしろう降りたりし朝  神無月のころ  <b>学びを広げる</b> 章段の読み比べ 「家居のつきづきしく」 文法から解釈へ③助動詞 古文を読むために④助動詞  ●「随筆」に描かれた筆者の心情を読み取る ●『枕草子』『徒然草』に描かれた季節感や人生観について考える	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・それぞれの季節で取りあげられた時間・風物・情景と、それらに対する評価について整理する。 ・「秋は」の段で取りあげられたものの違いについて話し合う。  ・「つひに見えぬ」とはどういうことか説明する。 ・当時の文学作品がどのように享受されていたか考える。 ・自分の思う「ありがたきもの」について理由とともに発表する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。  ◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「つれづれなるままに」を読む。 ・「弓射ることを習ふ」人、「道を学する人」にとって、「懈怠の心」がどのような形で表れるか、具体的に説明する。 ・筆者のいう「懈怠の心」について自分の体験をもとに話し合う。  ・上人の行動と心の動きを順を追って整理する。 ・「上人の感涙いたづらになりけり。」にこめられた筆者の思いについて話し合う。  ・猫またのうわさを聞いて、法師が考えた内容を本文中から抜き出す。 ・法師の心の状態と、そのような法師をどう思うか話し合う。  ・「ある人」が指摘している内容を整理する。 ・筆者がこの話を書き記した理由を話し合う。  ・どのようなことが「口惜しき」なのか説明する。 ・「今は亡き人なれば、かばかりのことも忘れ難し。」に表れた筆者の気持ちを話し合う。  ・「おとなふものなし。」とは、どのような様子を表したのか説明する。 ・筆者が「柑子の木」を見て「少しことさめ」た理由について話し合う。  ・「家居のつきづきしく」と「神無月のころ」を読み比べ、筆者の受け止め方の違いについて話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>知・技</b> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1ウ) ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。(1エ) ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(2イ) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2ウ) ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(2エ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2カ)  <b>思・判・表</b> ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ③文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ)  <b>国</b> ・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章に表れているものの見方を捉えて内容を解釈し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。  ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	三 物語	竹取物語  学びを広げる 古典作品の典拠利用 『竹取物語』 古典の扉 平安時代の成人と結婚 文法から解釈へ④ 接続助詞「ば」  伊勢物語 芥川  東下り 古文を読むために⑤助詞 文法から解釈へ⑤助詞  ●「物語」の設定を理解し、登場人物のおかれた状況や心情を読み取る ●『竹取物語』『伊勢物語』に描かれた世界観や人間のありようを考える	4	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三寸ばかりなる人」の不思議さを説明する。</li> <li>・竹取の翁の生活の変化について説明する。</li> <li>・翁が「男はうけきはらず呼び集へ」たのは何のためか話し合う。</li> </ul> <p>・『竹取物語』を題材として作られた後世の作品について調べ、その内容を発表する。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p> <p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の行動を順を追って整理する。</li> <li>・「白玉か……」の歌にこめられた男の心情を説明する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男が京から東国へ旅立った時の思いを説明する。</li> <li>・駿河の国で詠まれた二つの歌にこめられた心情をそれぞれ説明する。</li> <li>・「名にし負はば……」の歌を聞いた際の「みな人」の思いについて話し合う。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1ウ)</li> <li>・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。(1エ)</li> <li>・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。(2ア)</li> <li>・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(2イ)</li> <li>・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2カ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア)</li> <li>②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ)</li> <li>③作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで作品の文化的背景を理解し、文章の種類を踏まえて内容や展開についての的確に捉え、学習課題にそって古典から受け継がれてきた題材について発表しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)</li> <li>・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(Bオ)</li> </ul>

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
四 和 歌		万葉集	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>・句切れに注意して各歌を音読する。</li> <li>・印象に残った歌を選び、そこに描かれた情景や思いを説明する。</li> <li>・万葉仮名による表記について、気づいたことを話し合う。</li> <li>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。((1)ア)</li> <li>・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。((1)オ)</li> <li>・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。((2)ア)</li> <li>・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。((2)イ)</li> <li>・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。((2)エ)</li> </ul>
		古今和歌集		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>・句切れに注意して各歌を音読する。</li> <li>・句切れに注意して各歌を音読する。</li> <li>・印象に残った歌を選び、そこに描かれた情景や思いを説明する。</li> <li>・それぞれの歌に用いられている修辞を指摘し、その効果を説明する。</li> <li>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア)</li> <li>② 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ)</li> <li>③ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ)</li> </ol>
		新古今和歌集		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>・句切れに注意して各歌を音読する。</li> <li>・句切れに注意して各歌を音読する。</li> <li>・印象に残った歌を選び、そこに描かれた情景や思いを説明する。</li> <li>・『新古今和歌集』の和歌と《参考》にあげた和歌との関係について、気づいたことをまとめる。</li> <li>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解し、他の作品などとの関係を踏まえて内容の解釈を深め、学習課題にそって詩歌の表現技法についてまとめようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)</li> <li>・和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動。(Bエ)</li> <li>・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(Bオ)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●「和歌」に描かれた情景や心情を読み取る</li> <li>●「和歌」の特徴や技法について理解する</li> <li>●『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』を理解し、日本の言語文化における意義について考える</li> </ul>			

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
		<p><b>和歌の修辞</b></p> <p>和歌の世界へ 古典の扉 和歌——つながる うとする言葉</p> <p>●「和歌」の特徴や技法について理解する</p>	2	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五文字のテーマを設定して折句の短歌を作る。</li> <li>・第五句を「○○の夕暮れ」とする体言止めの短歌を作る。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1ウ)</li> <li>・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。(1オ)</li> <li>・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。(2ア)</li> <li>・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2ウ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b> 書くこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。(Aア)</li> <li>②自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の工夫をしている。(Aイ)</li> </ol> <p><b>目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解し、自分の思いが効果的に伝わるよう表現の工夫を工夫し、今までの学習を生かして感じたことや発見したことを短歌で表現しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする活動。(Aア)</li> </ul>

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	五 軍記	<p>平家物語</p> <p>【参考】祇園精舎 木曾の最期</p> <hr/> <p>学びを広げる</p> <p>古典作品の典拠利用 『平家物語』</p> <p>古典の扉 装束描写が生み出す効果</p> <p>文法から解釈へ⑥敬語</p> <p>古文を読むために⑥敬語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「軍記」に描かれた人物の言動や心情を読み取る</li> <li>●中世の言葉遣いや、「語り」の特徴について理解する</li> <li>●『平家物語』に描かれた人間の死生観について考える</li> </ul>	3	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「祇園精舎」を読む。</li> <li>・「巴との別れ」を読み、義仲と巴の言動から、それぞれの心情をまとめる。</li> <li>・「御身もいまだ疲れさせ給はず。」「御身は疲れさせ給ひて候ふ。」と反対のことを言った兼平の気持ちを説明する。</li> <li>・主従二騎になってからの、義仲の心情の変化を、兼平に対する言動に即して整理する。</li> </ul> <p>・『平家物語』を題材として作られた後世の作品についてさまざまなジャンルにわたって調べ、その内容を発表する。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア)</li> <li>・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</li> <li>・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。(1)エ)</li> <li>・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2)カ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア)</li> <li>②作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、作品の成立した背景を踏まえて内容の解釈を深め、学習課題にそって古典から受け継がれてきた芸能の題材について調べて発表しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)</li> <li>・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(Bオ)</li> </ul>

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例	
六	日記・紀行	土佐日記 門出	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・文章の表現のおもしろさについて説明する。 ・「守柄にや……しもあらず。」に表れた作者の思いについて説明する。 ・作者がこの日記を女性の立場で書き記した理由を調べる。	<b>知・技</b> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1ウ) ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。(1エ) ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(2イ) ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(2エ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2カ)	
		忘れ貝		・「寄する波……」と「忘れ貝……」の歌にこめられた心情を説明する。 ・「親、幼くなりぬべし。」とは、どのような様子か話し合う。 ・「手を漬でて……」の歌にこめられた心情について説明する。		
		帰京 古典の扉 月と暦		・京に着いてからの作者の心情の変化を、展開に即して整理する。 ・「生まれしも……」と「見し人の……」の二つの歌にこめられた心情について話し合う。 ・「門出」の場面と読み比べ、表現や内容の対応が見られる箇所を指摘する。		<b>思・判・表</b> ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ③作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) ④作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ)
		奥の細道 旅立ち		◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・本文を音読し、対句的な表現を抜き出す。 ・作者の気持ちを場面ごとに整理する。 ・「草の戸も……」と「行く春や……」の二つの句にこめられた心情について説明する。		<b>主</b> ・進んで作品の文化的背景を理解し、作品と他の作品との関係を踏まえて内容の解釈を深め、今までの学習を生かして異なる時代に成立した作品を比較して論じようとしている。
		立石寺		・芭蕉が立石寺で何に心を動かされたのか説明する。 ・「閑かさや……」の句に詠まれた情景について説明する。		◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ) ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。(Bウ) ・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(Bオ)
		大垣		・この場面での芭蕉と門人たちの心情を考える。 ・「蛤のふたみに別れ……」の句に詠まれた情景について説明する。		
		学びを広げる 古典作品の読み比べ 古典の扉 古典における「旅」		・「大垣」と「旅立ち」とを読み比べ、表現上の対応がみられる箇所を指摘する。 ・『奥の細道』『旅立ち』と『土佐日記』『門出』とを読み比べ、書き手のおかれている状況や心情の違いについて話し合う。		
		●「日記」「紀行」を読み、それぞれの場面に描かれた作者の心情を理解する ●作品の中で和歌や俳句が果たす役割について考える ●「旅」という非日常的な空間が呼び起こす人生観について考える		◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。		

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	一 漢文入門	漢文の世界へ 漢文の基本構造と訓読 成句・格言を読む 置き字／再読文字 古典の扉 身近にある漢文  ●漢文の世界に分け入って、言語文化への関心をもつ ●訓読のきまりについて基本的な事項を学ぶ	3	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「漢文の世界へ」を読む。</li> <li>・「漢文の基本構造と訓読」を読み、訓読の基本的なきまりについて理解する。</li> <li>・成句・格言を繰り返し音読する。</li> <li>・「置き字／再読文字」を読み、訓読の基本的なきまりについて理解する。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。((1)ア)</li> <li>・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。((2)ア)</li> <li>・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。((2)ウ)</li> <li>・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。((2)エ)</li> <li>・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。((2)オ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア)</li> <li>②作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで我が国の文化と外国の文化との関係について理解し、自分のものの見方や考え方を深め、学習課題にそって我が国の言語文化について考えたことを発表しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)</li> </ul>

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	二 故事成語	<b>漁父之利</b>  <b>借虎威</b>  <b>朝三暮四</b>  <b>推敲</b>  <b>学びを広げる</b> 現代に生きる故事成語 漢文を読むために① 漢字の 成り立ち／音と訓 古典の扉 漢和辞典の活用  ●「故事成語」に表れた教 訓や風刺などを読み取 る ●「故事成語」を理解し、 現代における意義を考 える	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・本文を繰り返し音読する。 ・「漁父の利」が現在どのような意味で使われているか調 べる。  ・「然」の内容を具体的に説明する。 ・「虎の威を借る」が現在どのような意味で使われている か調べる。  ・衆狙が怒ったり喜んだりしたのはなぜか、説明する。 ・「朝三暮四」が現在どのような意味で使われているか 調べる。  ・韓愈が「敲」の字をよいとしたりした理由について話し合う。 ・なぜ二人は「轡を並べて」詩を論じたのか考える。 ・「推敲」は現在どのような意味で使われているか調べ る。  ・教科書で取りあげた四編以外の故事成語について意 味や由来を調べ、それを使って短い文章をつくり、発 表する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉 でまとめる。	<b>知・技</b> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支 える働きがあることを理解している。((1) ア) ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量 を増し、それらの文化的背景について理 解を深め、文章の中で使うことを通して、 語感を磨き語彙を豊かにしている。((1) ウ) ・文章の意味は、文脈の中で形成されるこ とを理解している。((1)エ) ・古典の世界に親しむために、古典を読 むために必要な文語のきまりや訓読のき まり、古典特有の表現などについて理解 している。((2)ウ) ・時間の経過や地域の文化的特徴などに よる文字や言葉の変化について理解を 深め、古典の言葉と現代の言葉とのつな がりについて理解している。((2)エ) <b>思・判・表</b> ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、 展開などについて叙述を基に的確に捉 えている。(Bア) ②作品の内容や解釈を踏まえ、自分のも のの見方、感じ方、考え方を深め、我が 国の言語文化について自分の考えを もっている。(Bオ) <b>主</b> ・進んで古典の言葉と現代の言葉とのつ ながりについて理解し、内容や展開につ いて的確に捉え、学習課題にそって古 典から受け継がれてきた表現の技法など について調べようとしている。  ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり 討論したりする活動。(Bイ) ・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能 の題材、内容、表現の技法などについ て調べ、その成果を発表したり文章にま とめたりする活動。(Bオ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	三 史話	<b>先従隗始</b>  <b>鷄鳴狗盜</b>  <b>臥薪嘗胆</b>  <b>学びを広げる</b> 史話の登場人物 漢文を読むために② 春秋・戦国時代 古典の扉 歴史を記録する  ●「史話」に描かれた人物の言動や心情を読み取る ●「史話」の魅力を理解し、読み継がれてきた意義を考える	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・「先従隗始。」とはどのようなことを求めているのか説明する。 ・郭隗の弁舌の巧みさがどのような点にあるか話し合う。  ・「為狗盜者」と「為鷄鳴」者が、それぞれどのように孟嘗君の危機を救ったか説明する。 ・賓客たちが「尽羞之。」と「皆服。」という態度をとったのはなぜか考える。  ・登場人物を呉側と越側とに分けて、人物関係を整理する。 ・「臥薪」と「嘗胆」はどのような行為でなぜそうするのか説明する。 ・遺言に込められた子胥の心情と、夫差の最後の言葉にこめられた心情について話し合う。  ・「史話」に登場する人物の生き方について話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>知・技</b> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。(1)エ) ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(2)イ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2)カ) <b>思・判・表</b> ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ③作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) <b>語</b> ・進んで作品の歴史的背景等を理解し、内容や展開などについての的確に捉え、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。  ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ) ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。(Bウ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	四 漢詩	<b>四季</b> 春暁 春望 聞蟬感懷 八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九 江雪 冬夜読書	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・それぞれの詩を音読し、そこに描かれた心情について説明する。 ・それぞれの詩に表現された季節の情景についてまとめる。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>知・技</b> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。((1)ア) ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。((2)イ) ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。((2)ウ) ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。((2)エ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。((2)カ) <b>思・判・表</b> ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ③作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) ④作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) <b>主</b> ・言葉には文化の創造を支える働きがあることを進んで理解し、作品に表れているものの感じ方を積極的に捉えて内容を解釈し、学習課題にそって作品を比較して論じようとしている。  ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ) ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。(Bウ) ・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(Bオ)
		<b>望郷</b> 静夜思 聞雁		◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・それぞれの詩を音読し、そこに描かれた心情について説明する。 ・「望郷」の二作品と井伏鱒二の訳詩とを読み比べ、それぞれの味わいについて話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	
		<b>友情</b> 送元二使安西 桂林荘雜詠示諸生 漢詩の世界へ		◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・それぞれの詩を音読し、そこに描かれた心情について説明する。 ・「友情」の二作品を読み比べ、感じたことを話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	
		<b>学びを広げる</b> 題自画《孤客入石門図》／ 草枕 古典の扉 日本の漢詩文  ●「漢詩」に描かれた情景や心情を読み取る ●「漢詩」の特徴や技法について理解する ●「漢詩」を理解し、日本の言語文化における意義について考える		◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・漢詩・図・文章を読み比べ、気づいたことやそれぞれの関係について話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	五 文章	<b>雑説</b> 漢文を読むために④古文復興 ●作品の展開や構造を理解し、内容を的確に読み取る ●筆者の主張について、現代の視点から考える	2	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・段落ごとの要旨を簡潔にまとめる。 ・「伯楽」と「千里馬」がそれぞれ何のたとえとして用いられているか説明する。 ・筆者がこの文章で訴えようとしていることは何か話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>知・技</b> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。((1)ア) ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。((1)エ) ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。((2)イ) <b>思・判・表</b> ①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ③文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) <b>主</b> ・進んで文章の意味が文脈の中で形成されることを理解し、文章に表れている考え方を捉えて内容を解釈し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。 ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	六 思想	<p>論語 学問 人間 政治</p> <hr/> <p>学びを広げる 現代に生きる『論語』 古典の扉 孔子と門人</p> <p>●『論語』の「学問」「人間」「政治」についての主張を読み取る ●現代に読み継がれてきた『論語』の思想や知恵について考える</p>	4	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し音読する。</li> <li>・孔子が考える「学問」に向かう姿勢についてまとめる。</li> <li>・孔子が考える「人間」のあるべき姿についてまとめる。</li> <li>・孔子が「政治」を執り行う者の姿勢として大切だと述べていることをまとめる。</li> <li>・印象に残る『論語』の言葉を、その理由とともに発表する。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p> <p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し音読する。</li> <li>・『論語』の君子と小人を対比した記述を参考に、孔子が理想とした「君子」のあり方を考え、話し合う。</li> </ul> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。((1)ア)</li> <li>・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ)</li> <li>・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。((2)イ)</li> <li>・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。((2)カ)</li> </ul> <p><b>思・判・表</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア)</li> <li>②作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ)</li> </ol> <p><b>主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで文章の歴史的・文化的背景などを理解し、自分自身のものの見方、考え方を深め、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。</li> </ul> <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)</li> <li>・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(Bオ)</li> </ul>

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	一 小説 一	<b>羅生門</b> ● 作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解する。	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 この作品の背景となっている京都の町や羅生門の描写に注目し、そこに描かれている当時の社会状況についてまとめる。 2 下人が羅生門の下に至るまでの経緯をふまえ、門の下での下人の心情についてまとめる。 3 楼に上って以降の下人の心理の推移を、箇条書きにして整理する。 4 老婆は自分の行いについてどのように語っているか、また、下人はそれをどのように受け止めているか、整理する。 5 「下人と老婆」のその後の物語は、どのようなものになると思うか、話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>知・技</b> ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。(1)エ) ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。(2)ア) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2)カ)
		<b>学びを広げる</b> <b>古典作品の典拠利用</b> ● 小説とその典拠になった説話を読み比べ、小説の読みを深める。		◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「羅生門」と説話を読み比べ、書きぶりや展開などについて、共通点や相違点を発表し、話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>思・判・表</b> ① 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ② 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) ③ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ) ④ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ)
		<b>レッスン</b> ● 作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解する。		◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「その日」まで、「あたし」は先生に対してどのような印象をもっていたか、小説の言葉を抜き出す。 2 「その日」の「先生」の言動を整理する。 3 「あたしはこのときはじめて、先生を、すきだと思った。」とあるが、この時、「あたし」の中にどのような変化が起こったか、話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>記</b> ・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて粘り強く捉え、学習課題にそって異なる時代に成立した小説を比較し論じようとしている。 ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ) ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。(Bウ) ・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(Bオ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
		<b>学びを広げる</b> <b>小説の書き換え</b>  ●語りの仕組みを理解し、語り手を換えて物語を書き換える。	4	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 小説「レッスン」のできごとの一覧表を作成する。 2 登場人物の特徴を明確にし、呼称(作品中における人物の呼び方)を決める。 3 「その日」のできごとを「先生」の視点で捉え直し、場所・行動・人物の様子・会話・心の動きなどの細部を明確にする。 4 読者に一番印象づけたい場面はどこかを考え、効果的な語りになるように、語る順序を工夫する(プロットの作成)。 5 プロットに従って下書きする。その際、読者に与える印象を考え、語り手の言葉遣いを工夫する。 6 下書きを推敲し、清書する。 7 発表の場を設け、感想を交換する。  ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>知・技</b> ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。((1)エ) <b>思・判・表</b> ①自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。(Aア) ②自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。(Aイ) <b>主</b> ・文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、自分の思いが効果的に伝わるよう表現の仕方を工夫し、今までの学習を生かして小説を書き換えようとしている。  ◆言語活動例 ・本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする活動。(Aア)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	二 詩	<p><b>小諸なる古城のほとり</b></p> <p>●「詩」について学び、近代詩の展開を把握する。</p> <p><b>時計</b> 文学の扉 近代詩と翻訳詩</p> <p>●「詩」について学び、近代詩の展開を把握する。</p> <p><b>サーカス</b></p> <p>●「詩」について学び、近代詩の展開を把握する。</p> <p><b>シジミ</b></p> <p>●「詩」について学び、近代詩の展開を把握する。</p> <p><b>I was born</b></p> <p>●「詩」について学び、近代詩の展開を把握する。</p> <p><b>学びを広げる</b> 詩の朗読会</p> <p>●「詩」に描かれた情景や、作者の心情を理解し、作品世界に即した朗読を試みる</p>	6	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 詩を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。</p> <p>2 否定の表現を全て指摘し、詩全体の中でどのような効果をもたらしているか、説明する。</p> <p>3 「濁り酒濁れる飲みて／草枕しばし慰む」にはどのような思いがこめられているか、話し合う。</p> <p>1 詩を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。</p> <p>2 次の詩句は、どのような様子表現しているか、説明する。</p> <p>①古いさびしい空家の中で／椅子が茫然として居るではないか。②幽霊のやうにほごれてくる／柱時計の錆びついた響を聴いた。</p> <p>3 「じぼ・あん・じやん！ じぼ・あん・じやん！」という表現は、この詩の世界にどのような効果をもたらしているか、話し合う。</p> <p>1 詩を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。</p> <p>2 次の詩句は、どのような様子表現しているか、説明する。</p> <p>①安値いりボンと息を吐き ②観客様はみな鱈 ③咽喉が鳴ります牡蠣殻と</p> <p>3 「ゆあーん ゆよーん ゆやゆよん」は何を表現しているか、話し合う。</p> <p>1 詩を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。</p> <p>2 第二連の片仮名表記はどのような印象を生み出しているか、説明する。</p> <p>3 次の詩句から読み取れる「私」の思いについて、話し合う。</p> <p>①鬼ババの笑いを／私は笑った ②それから先は／うつすら口をあけて／寝るよりほかに私の夜はなかつた</p> <p>1 詩を繰り返し音読し、表現やリズムの特徴を指摘する。</p> <p>2 「白い女」は、作品の中でどのような役割を果たしているか、イメージの効果に着目して説明する。</p> <p>3 「——やっぱり I was born なんだね——」という「僕」の言葉は、どのような気持ちから出たものであったか、説明する。</p> <p>4 「父」は「蜉蝣」の話にどのような思いをこめたのか、話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p> <p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 どのように朗読するか、台本を作る。</p> <p>2 練習パートナーを決め、朗読の練習をする。</p> <p>3 朗読会を開催する。</p> <p>4 朗読会後の感想を交換し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>知・技</b></p> <p>・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1ア)</p> <p>・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1ウ)</p> <p>・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。(1オ)</p> <p>・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。(2カ)</p> <p><b>思・判・表</b></p> <p>①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア)</p> <p>②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ)</p> <p>③文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ)</p> <p>④「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ)</p> <p><b>主</b></p> <p>・進んで我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解し、作品に表れているものの見方や感じ方を積極的に捉えて内容を解釈し、学習課題にそって互いの解釈の違いについて話し合おうとしている。</p> <p>◆言語活動例</p> <p>・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ)</p> <p>・和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりしているなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動。(Bエ)</p>

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	三 小説 一	<b>青が消える</b> ● 作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解する。 ● 物語と現実との関係に注目して、作品世界について考える。	3	◆ 学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「僕」が「1999年の大晦日の夜」に体験した事柄とそれに対する「僕」の心情について、整理する。 2 「青の消滅」に対する「僕」以外の人々の反応はどのように語られているか、それぞれまとめる。 ① 別れたガールフレンド ② 白い制服を着た駅員 ③ 総理大臣の声 3 「でも青がないんだ」「そしてそれは僕が好きな色だったのだ。」という言葉には、「僕」のどのような思いがこめられているか、考える。 4 「僕」が生きているのはどのような(世界)か。本文を引用しながら話し合う。 ◆ 学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>知・技</b> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。((1)ア) ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。((1)エ) ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。((2)ア) ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。((2)エ) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。((2)カ)
		<b>夢十夜</b> 文学の扉 夢の中で出かけて行く ● 作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解する。 ● 物語と現実との関係に注目して、作品世界について考える。		◆ 学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 「第一夜」と「第六夜」の中で起こっているできごとを、「自分」の行動や認識に即して整理する。 2 「百年はもう来ていたんだな。」とあるが、「自分」がこう思うのはなぜか、説明する。 3 「百年」はどのような意味をもつか、考える。 4 女は「自分」にとってどのような存在か、話し合う。 5 「ついに明治の木にはとうてい仁王は埋まっていないものだ」とあるが、「自分」は何をどのように悟ったと考えられるか、話し合う。 6 「それで運慶が今まで生きている理由もほぼわかった。」とあるが、その「理由」を「自分」はどのように考えているか、話し合う。 7 ① 夢を叙述した他の作品を紹介する。 ② それらの作品を読み比べ、おもしろかった点や考えたことを発表し合う。 ◆ 学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>思・判・表</b> <b>①</b> 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) <b>②</b> 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) <b>③</b> 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) <b>主</b> ・進んで読書の意義と効用について理解を深め、作品に表れているものの見方、考え方を捉えて内容を解釈し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。 ◆ 言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ) ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。(Bウ) ・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(Bオ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	四 短歌と俳句	<p><b>その子二十 —短歌十六首</b> 文学の扉 短歌の近代</p> <p>●それぞれの作品に詠まれた情景や心情を理解する。 ●「短歌」「俳句」の形式を理解し、近代短歌や俳句の展開を把握する。</p>	3	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 それぞれの短歌を音読し、その調べを味わう。 2 それぞれの短歌について、句切れを調べ、句切れのもたらす表現効果について話し合う。 3 印象に残った短歌を選び、次の点に留意して、感想を書く。 ①区切れとリズム ②短歌に描かれた情景 ③印象的な表現</p>	<p><b>知・技</b></p> <p>・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。((1ア) ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1ウ) ・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。((1オ)</p>
		<p><b>いくたびも —俳句十六句</b> 文学の扉 季語と歳時記</p> <p>●それぞれの作品に詠まれた情景や心情を理解する。 ●「短歌」「俳句」の形式を理解し、近代短歌や俳句の展開を把握する。</p>		<p>1 それぞれの俳句を音読し、その調子を味わう。 2 それぞれの俳句について、季語とその季節を調べる。 3 それぞれの俳句について、切れ字や句切れを調べ、その表現効果について話し合う。 4 印象に残った俳句を選び、次の点に留意して、感想を書く。 ①季語の効果 ②切れ字・句切れの効果 ③印象的な表現</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p><b>思・判・表</b></p> <p>①文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ②作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ③作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ)</p> <p><b>主</b></p> <p>・進んで我が国の言語文化の特質について理解し、作品の解釈を踏まえて自分のものの見方、考え方を深め、学習課題にそって我が国の言語文化について論述しようとしている。</p> <p>◆言語活動例</p> <p>・我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動。(Bア) ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ) ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。(Bウ)</p>

月 単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	<b>学びを広げる</b> <b>俳句を詠む</b> ●歳時記を活用し、俳句の実作を試みる。	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 学校や家庭での生活、旅行、自然などを通じて、自分の心にふれたことをメモする。 2 メモしたことの中から、句にしたいことを選び、その時の気持ち、周囲の事物や風景、時間などについて箇条書きにする。 3 1と2をふまえて、〈句の背景〉を書く。 4 句にふさわしい季語を探す。 5 句を作る。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>知・技</b> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1ア) ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1ウ) ・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。(1オ) <b>思・判・表</b> ①自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。(Aア) ②自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。(Aイ) <b>主</b> ・進んで語感を磨き語彙を豊かにし、集めた材料のよさや味わいを吟味し、今までの学習を生かして俳句を作ろうとしている。 ◆言語活動例 ・本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする活動。(Aア)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
	五 小説三	<b>空缶</b> ● 作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解する。 ● 作品世界が現代に問われているものについて考える。	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 登場人物の原爆体験とその後三十年の人生を整理する。 2 次にあげる登場人物の言葉はそれぞれどのような心情から発せられたものか、考える。 ①「原爆の話になると、弱いよ」 ②「ただ生きてきただけのごたる気のする」 ③「うちは原爆にこだわりすぎるとやろか」 3 「あの時の少女が、きぬ子だったのだ。」とあるが、「私」がこの時までこのことに気づけなかったのはなぜか、まとめる。 4 「光の中に取り出された白い脂肪のぬめった珠は、どんな光を放つのだろうか。」という結びの言葉には「私」のどのような思いがこめられているか、話し合う。 5 広島・長崎の原爆体験を描いた文学作品にどのようなものがあるか調べ、作家と作品名、内容について紹介し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>知・技</b> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。((1)ア) ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。((1)エ) ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。((2)ア) ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。((2)カ) <b>思・判・表</b> ① 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。(Bア) ② 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。(Bウ) ③ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(Bエ)
		<b>待ち伏せ</b> ● 作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解する。 ● 作品世界が現代に問われているものについて考える。		◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「私」が「戦争」で体験したできごとについて、整理する。 2 「私」が手榴弾を投げてしまった理由について、本文の記述に即してまとめる。 3 「私」は、なぜ『まさか、殺してなんかいないよ』と言って、……しばらく抱いていたのか、考える。 4 「私」は、「今」「ここ」で、「私の記憶している起こったこと」についてどのように考えているか、「でもとどき、……見ることがある。」という文に留意して、まとめる。 5 「私が戦争の話を書きつづけている理由」について、話し合う。 6 ヴェトナム戦争について、テーマを決めて調べ、発表する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>国</b> ・進んで読書の意義と効用を理解し、作品や文章の成立した背景を踏まえて内容の解釈を粘り強く深め、今までの学習を生かして小説を比較して論じようとしている。 ◆言語活動例 ・作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。(Bイ) ・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。(Bウ)
		<b>学びを広げる</b> 小説の読み比べ ● 小説を読み比べ、戦争体験が語られる背景について考える。 ● 作品世界が現代に問われているものについて考える。		◆学習目標と学習の流れを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「空缶」と「待ち伏せ」を次の観点から読み比べ、話し合う。 ・「私」は、誰に向かって語っているのか。 ・「私」は、どのような動機から語っているのか。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
		<b>月の誤訳</b> ●異文化との出会い、交流を通して培われた考えや主張を理解する。 ●言語文化への学びの意欲を高める	3	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 文学作品の翻訳において、すぐれた翻訳とはどのような翻訳のことか、『奥の細道』における「月日」のドイツ語訳、『雨月物語』における「雨月」のドイツ語訳の例をもとに、筆者の考えをまとめる。 2 「比喻という老衰」の具体例を探す。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>知・技</b> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。((1)ア) ・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。((1)オ) ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。((2)ア) ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。((2)エ)
		<b>日本語の部屋</b> <b>文学の扉 英語で味わう万葉集</b> ●筆者の知見をもとに日本の言語文化の魅力や将来について考える。 ●言語文化への学びの意欲を高める		◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 題名にある「日本語の部屋」とは何か、考える。 2 外国人である筆者があえて日本語で小説を書くようになった理由は何か、説明する。 3 日本語の未来について、考えを六〇〇字程度の文章にまとめる。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<b>思・判・表</b> ① 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(Bイ) ② 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(Bオ) <b>主</b> ・進んで我が国の言語文化の特質について理解し、我が国の言語文化について自分の考えをもち、今までの学習を生かして我が国の言語文化について論述しようとしている。 ◆言語活動例 ・我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動。(Bア) ・和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりしているなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動。(Bエ) ・古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。(Bオ)